

## 課題名 くくりわなによるシカ捕獲の2地点比較 (伊豆半島と箱根・丹沢地域)

伊豆森林管理署 藤垣 遼大  
神奈川県自然環境保全センター 野生生物課 小澤 海斗

### 1 背景

ニホンジカ (*Cervus nippon*, 以下、シカ) の分布域拡大および生息数の増加は、農林業被害や森林生態系の衰退などの深刻な影響を及ぼしており、全国的に対策が求められています。このような状況を踏まえ、伊豆森林管理署（以下、伊豆署）では平成 27 年度から直営によるシカ捕獲を開始し、平成 30 年度以降は委託事業による捕獲を併用することで捕獲体制の拡充を図ってきました。一方、隣接する神奈川県では平成 14 年度よりシカの個体数管理とモニタリングを実施し、令和 3 年度以降、委託事業によるわな捕獲が実施されています。しかし、シカの個体数は依然として地域によって高水準にあり、捕獲のさらなる強化に加え、地域のシカ密度や実情に即した管理が求められています。また、少子高齢化の進行に伴う捕獲の担い手不足を背景に、効率的な捕獲手法の確立や、国と都道府県をはじめとする行政機関間の連携強化が重要な課題となっています。本発表では、伊豆署および神奈川県におけるシカ捕獲の取組内容と捕獲実態を比較・整理し、その結果を踏まえて今後のシカ捕獲の在り方について考察します。

### 2 具体的な取組

伊豆署および神奈川県におけるわなの種類や仕様、捕獲効率を整理・比較しました。次に、両組織のシカ捕獲の実施状況について現地視察を行いました。現地では、捕獲方法、作業体制等を確認するとともに、捕獲作業者への聞き取りを通じて、捕獲の運用状況や実態を把握しました。また、採用している歩掛や設計積算の考え方に対する違いを共有し、仕様書の内容等について情報共有しました。本調査により、組織ごとの捕獲体制の違いや課題を整理しました。

### 3 取組の結果

図 1 に示すように、伊豆署の捕獲効率は神奈川県よりも高いことが確認されました。現地視察や仕様書の情報共有では、低額入札による課題はあるものの、捕獲エリアの工夫やわな設置適地の事前調査などの対応策を共有できました。以下に、現地視察での所見をまとめます。

伊豆→神奈川（視察者→視察先）

- 受託者とのやりとりが密。
  - 委託者（神奈川県）の意向に沿った捕獲を行うことができている。
  - 仕様書が端的かつ明快である。
- 神奈川→伊豆（視察者→視察先）
- 捕獲前の誘引は効果的である。
  - 作業効率が良い（わな設置箇所、集合埋設）。
  - 捕獲作業者の経験や勘といった知識が受け継がれている。

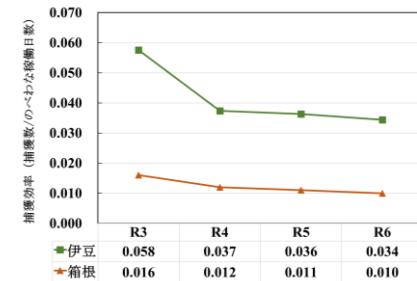


図-1 伊豆（直営）と箱根（委託）の捕獲効率の推移



写真-1 現地視察の様子（伊豆署管内）

### 4 まとめ

野生动物管理においては、地域の環境条件や土地所有者の特性に応じて、捕獲手法や実施体制を工夫することが重要です。本取組では、管理主体の異なる伊豆署と神奈川県におけるシカ捕獲を比較し、担当者間の交流が、捕獲技術の知識向上のみでなく、設計積算など事務的課題の解消にも有効であることが示されました。また、他地域との情報共有により、近隣県の野生动物管理の方向性や取組内容を相互に把握でき、地域間の比較は効果的であると感じました。これらの取組は、県境部における管理方針の違いによる対応のばらつきを軽減し、管理主体の違いを越えた連携の重要性を示す一事例として、将来的な広域的な野生动物管理の検討に資するものと考えられます。